ISSN 0388－5569
VOL. 8 No. 1
（通巻 22号）
1987. 2

Library News

山口大学附属図書館報

目次

ドレスデン滞在記　渡辺信生 ‥‥1
歴史を誇るウィーン大学図書館　川村博忠 ‥‥3
・寄贈図書 ‥‥‥

建の大きな建物があり、その直角の上を押えている屋根が縦長の菱形の形をしていて、コブラの頭のような奇妙な印象を与える。これが曽っては見下すのに好都合な監視所であって、この建物は監獄だったのである。ここから右側の低いアーケードをくぐると、20m×10mほどの石畳を敷いたもう一つの中庭に出る。集った受講者全員の前で、この建物の由来が説明され、左手にある1m四方ほどの低い石の台座の上に花束が置かれ、黙禱が捧げられた。この台座の上で絞首刑が執行されたのである。露と消えた各国の反ナチ運動の闘士は、1069名に及ぶと言う。その中の一人、ゲオルク・シューマンの最後の言葉が、この台座に刻まれている。「平和と人間性のドイツ、社会主義のドイツは、我々に続く人たちによって創られる。たとえ我々が死なねばならないとしても」シューマンバウと言う建物の名前もここに由来する。この台座の反対側10mほどの所に、5人の囚人の等身大の立像が立っている。深い沈黙と悲しみと怒りが一つに溶け合って、この立像から立ち昇っているようである。

石の台座に近い建物に入って行くと、厚い壁の狭いうす暗い独房が7室並び、入口と小さな窓には鉄格子がはめられ、中の冷たい石の床の上には花束が置かれていた。この独房は処刑の前に囚人が最後の時を過した所で、ここだけは昔のままに残されて一般に公開されている。

ドレスデン工科大学には、22の学科と4研究所があって、中央図書館の蔵書数は、製本された雑誌を含めて120万冊、その中の647,000冊が各学科と研究所に配置されている。文科系の本はその中の$\frac{1}{4}$弱である（1976現在）。工科大学ではあるが、文科系の学科もいくつか持っている。マルクス・レーニン主義学科、哲学・文化科学科、職業教育学科、社会主義経営学科、労働科学科などで、他に夏季講座を担当した応用言語学研究所や大学スポーツ研究所などがある。しかし、文科系の学生はやはりザクセン地方図書館を多く利用するようである。

この図書館の起源は、16世紀のドレスデン選帝候図書館にさかのぼるが、現在はドレスデン駅から市電で1時間もかかる所にあり、不便ではあるが堂々たる建物である。カード類はよく整理されているが、タイプされたカードよりも、手書きのカードが遥かに多くて読み取るのに苦労する。達筆なドイツ文字は、慣れないとそう簡単には読めないのである。東独ではコピーは簡単ではないので、とに角読まねばならないとなると、短期滞在の身ではどうしようもない。しかし、ゲーテの「ファウスト」の文献だけでも、300を越えるのを確認できたことがせめてもの収獲と言えようか。

この図書館の1階は書物博物館の役を果していて、中世から現代東独に至るまでの初版本、珍本、装飾本が、ガラスのケースや棚に納められて公開されている。最初は、羊皮紙に書かれた使徒パウロの手紙で、ギリシヤ語で書かれ、ラテン語訳も添えられている（9世紀末）。ドイツ中世の詩人　W.V.エッシエンバッハの「パルチファル」紙（1450年頃）、グーテンベルクの聖書の一葉（1450－1455）、A.デューラーのスケッチブツク、紙（1507－1528）、M.ルッター訳新約聖書（1522）、マヤの写本（12世紀）、ヴィヴァルディのヴァイオリン協奏曲の手書きの総譜、レッシング、ゲーテ、シラーの初版本などが主なものである。

所で東ドイツの生活であるが、市電とバスの切符は、6枚綴りが1マルクで20年間据え置きである。市電は3交代労働者のために24時間動いている。ローカル線にはＳＬが走っている。エルベ川を航行する船の燃料も石炭である。食料品は質を問わなければ、一般に驚くほど安い。米は1袋540g入りが0.7マルクで、目方は±5gと書いてあるのが面白い。1マルク78円として、日本の$\frac{1}{4}$位いの値段であろうか。バターは1kg10マルク。じゃがいもは5kgが0.65マルク。これらの食料品の価格は10年間不変である。ビールは1本0.9マルクで、空瓶を0.3マルクで引取るので、空瓶3本でビールが1本飲める。ドレスデン駅2階のレストランは、5マルク以内で十分食事ができる。

また質の良い食料品は割高だが、デリカテッセンと言う店で買える。インターショップに行けば、西側の品物が揃っているが、西マルクでないと買えない。夏季講座参加者は全員学生寮に期間中無料で宿泊できた。学生食堂も無料であった。寮はバス・トイレつきで、台所の電気コンロで自炊もできる。だが娯楽施設、レストラン、ホテルなど、まだかなり足りないので、私たちが長い期間東独に滞在するとすれば、かなり疲れるだろうと私には思われる。

（教養部教授）

歴史を誇るウィーン大学図書館

川　村　博　忠

ハプスブルグ帝政下での地図作成事情を知りたく、1986年4月より10月までの半年余、オーストリアのウィーンに出向いてきた。文献収集でウィーン大学の地理、歴史両学科にお世話になったほか、国立図書館、国立戦争文書館、国立工芸博物館、下オーストリア州立図書館、チロル郷土博物館などで地図の閲覧調査を行った。

オーストリアは国土面積84,000㎢、人口約800万人の小国である。だがハプスブルグ家が君臨していた今世紀初めまではヨーロッパの強国であり、オーストリア・ハンガリー帝国を形成していた時期の国土は、現在の5倍にまで拡がっていた。帝国の首都であったウィーンは長い間の繁栄によって、文化の堆積がきわめて厚い。音楽芸術の世界的中心地であることは言うに及ばず、建築、美祢、工芸等の各種文化財のほか、学術研究資料も多く、市内には由緒ある沿革と独自の個性を有する多種類の資料館や図書館、博物館、美祢館などが存在する。

ウィーン大学図書館は歴史の古さから、全ヨーロッパ的学術図書館の性格を有し、規模と伝統の点で、国内では国立図書館と双壁をなしている。ウィーン大学は1365年に創立されたドイツ語圏では最も古い大学であり、図書館もこのときに起源する。図書館前の中庭を囲む廻廊にはこの大学で活躍した著名な教授たちの威厳のある胸像が居並び、伝統を誇るヨーロッパ屈指の大学の雰囲気をかもし出している。約200万冊に及ぶ膨大な蔵書の中には、これら碩学たちの収集した貴重書を多数含むが、なかでも創設期にヨーロッパ各地から参集した教授たちによって集められ、寄贈された写本・手稿や初期印刷物は無二の価値を有しており、まさに学術の宝庫である。

ウィーン大学が600年余の歴史を経る過程で、この大学図書館は一時命脈を絶ったときがある。17世紀以降、宗教改革後の宗派争い、トルコの進撃、再三のペストの流行などでウィーンは混乱が続き疲弊した。教授や学生たちの多くが町を去って大学の権威は失落し、大学図書館は1756年王宮図書館に併合されてしまった。しかし、その後すぐ大学関係者間で固有の図書館の必要性が再認識され、啓蒙専制君主マリア・テレージアの治政下、解明主義的な活気のなかで、大学図書館は1777年に再興された。

19世紀後半ウィーン市街の大改造に際し、大学は市内中心部からリング（旧市壁を壊して建設された環状道路）に面した新しい建物に移転した。イタリアルネッサンス様式といわれる壮麗な現在の大学本館がそれで、図書館も1884年以来この建物の中に入っている。

重厚な入口のドアを押して図書館内に入ると、ソファの備わったロビーがあって、読書で疲れた学生たちの休憩や談話の場所となっている。片側には閲覧者用の電話室とコピー機がずらりと並んでいて、学生たちの利用頻度がすこぶる高い。ロビーの奥は広いロッカー室である。ロッカーは10シーリング（110円程度）のコインを要すが、鍵を開けるとコインは戻る仕組みになっている。

館内の階段を3階に昇ると総合目録室があり、目録カードが3カ所に分置されている。件名目録は1500～1930年と1930年以降の出版に区分、他の一つは各学科の図書室が所蔵する目録のカードである。大閲覧室（レーゼザール）は天井が高く、古風の机とスタンドが配列されていて、独得の格調を生みだしている。

大閲覧室の四隅にらせん状階段があって、中4階に昇ると四周に各分野ごとの基本図書が配列されていて自由に手に取ることができる。この図書館の閲覧方式は全体としては請求方式であるが、基本図書に限っては開架式になっている。館内には教官のための特別閲覧室（プロフェッソアツィンマー）が設けられている。私も登録して、もっぱらこの部屋を利用させてもらったが、この部屋の利用者は結構多く、古色を帯びた皮表紙の部厚いラテン文字の写本を黙々と解読する学究の姿などを見ると、この図書館の価値を改めて認識させられる思いがした。

特別閲覧室の便利さは、①机が大きくて各席が独立しているため、大型本の読書や筆記に好都合である、②室内に図書館職員が詰めていて、その場で図書の請求、受渡しができる、③コピーのための館外持出しが自由である（一般閲覧室の場合はパスポートか1,000シーリング程度の現金をカウンターに置く必要がある）――　などの点であった。

ウィーン大学図書館では閲覧時間も寛大であった。開館は朝9時から夜10時まで。土曜日は大学

が休みであるにもかかわらず、図書館だけは12時45分まで開いている。ただし、6月から9月までの夏休み期間中は開館時間が変則となる。7月と9月は夜間の閲覧時間が短縮され、8月のまる1カ月間は完全に休館となる。一方、ウィーン市内のもう一つの大規模図書館である国立図書館は9月を休館月としていて、両者の休館が重ならないよう配慮されている。

ウィーン大学図書館大閲覧室

ヨーロッパの大学は一般にはキャンパスというものがなく、大学の各校舎は市街の建物に混在するが、8学部から成るウィーン大学の場合も、校舎はショッテン地区の大学本館と新館を中心に、主な建物だけでも市内10カ所に分散している。そのため、各学科、研究所がそれぞれ専門領域にかかわる充実した図書室を完備している。これら学科図書室の蔵書を集計すると約200万冊といわれ、大学図書館の蔵書数にも匹敵する。

ウィーン大学をみて最もうらやましく思われたのは、これら学科図書室への専門職員（司書）の配属であった。司書は系統的な図書の収集と整理を行うほか、学生、教官への文献レファレンスを担当している。学科の助手や秘書は図書の業務には一切かかわっていない。私が世話になった地理学科（5講座）と歴史学科（4講座）にはそれぞれ司書2人がいて、いずれも内1人は名前にドクターをつけて呼ばれていたから博士の学位取得者であろう。必要文献が即座に見られる状況は研究上の大きなメリットである。

何事も良いことばかりではない。ウィーン大学図書館では、請求した本を手にするまでには理解に苦しむほどの時間がかかる。教官閲覧室でさえ、それに要する時間は最少限3時間である。午前中に請求すれば、場合によっては午後には出ているが、普通は翌日の受取りを覚悟しなければならない。午後の請求であれば翌日、アルファベット順に区分された受渡し棚に載せてある。最初はこのペースを知らなかったため、随分苛らついたものである。国民性の違いというのか、このような状況をこの国の人たちは苦痛と受止めている様子でもなかった。

この非能率的な図書館業務のことを大学関係者に話したところ、古い書庫の収容能力が膨らんだ蔵書量に対応できず、狭苦しく詰め込んでいることに原因があるという見解であった。建物の近代化と搬送システムの改良がない限り、現状の改善は望めそうもないようである。開架式の部分を大幅にふやせば職員の手間が省けて問題はある程度解決しそうだが、そのためには建物の構造に難点があるという。多くの彫刻で装飾された大学本館の外観はすばらしいが、建物の内部は複雑で、必ずしも機能的ではないようだ。芸術と実用をどう調和させるか、大学も大きな課題を背負っている

ように思われた。

（教育学部教授）

寄贈図書

（本　館）

八木　充（人文学部教授）

日本古代政治組織の研究　八木充著

塙書房　1986

信森廣光（人文学部教授）

ノルウエー語会話練習帳　信森廣光

大学書林　1986　カセットテープ共

金田道和（教育学部教授）

英語の授業分析　金田道和編

大修館書房　1986　（英語教育学モノグラフ・シリーズ）

功刀俊雄（教育学部講師）

スポーツの自由と現代　上・下巻　伊藤高弘他編

青木書店　1986

スポーツの概念　体育原理専門分科会編　不昧堂出版　1986（体育原理　2）

門倉正美（教養部助教授）

宮崎充保（　〃　〃　）

植村高久（　〃　講　師）

学校幻想とカリキュラム　日本エディタースクール出版部　1986

《お知らせ》

「山口大学附属図書館（本館・工学部分館）欧文雑誌目録稿」を刊行（昭和60年10月現在）

このたび本館並びに工学部分館の「欧文雑誌目録稿」を作成いたしました。

この目録は、電子計算機で入力・処理したものであり、今後はその処理能力を十分生かし入力データの修正あるいは補正等を行い、up－to－dateで総合的な利用しやすい目録を作成して行く所存です。

当面の利用はこの目録と「山口大学医学部雑誌目録　第5版（1985）」の併用となりますが、ご利用にあたってお気付きの点やご意見等がありましたら、附属図書館閲覧課雑誌係（784）までお願いいたします。

備付ビデオソフトの増加分

（本　館）

レーザーディスク

1. ヤコペッティの世界残酷物語
2. Space Disk　Vol. 1. スペースシャトル
   〃　〃 2. シャトル・ダウンリンク
   〃　〃 3. アポロ17号
   〃　〃 4. ボインジャーバイキング　惑星の旅
   〃　〃 5. 宇宙から見た地球
3. 生命の神秘
4. 砂漠は生きている
5. National Ski Method of Japan（日本スキー教程準拠）
6. 三匹荒野を行く
7. Henry V　（ヘンリイ５世）
8. Amadeus　（アマデウス）
9. To Sir, with Love（いつも心に太陽を）
10. The Strawberry Statement（いちご白書）
11. One Flew over the Cuckoo's Nest（カッコーの巣の上で）
12. 海底20000マイル
13. チャップリン傑作短編集
14. 禁じられた遊び

人事異動

〔昇　任〕（61.12.1）

前川英夫　事務部長（東京工業大学附属図書館閲覧課長から）

〔配置換〕（61.12.1）

上島順二郎　（事務部長）一橋大学附属図書館事務部長へ

（61.12.16）

赤野　徹　整理課総務係（閲覧課閲覧係から）

田中俊二　閲覧課閲覧係（閲覧課雑誌係から）

高崎鈴枝　閲覧課閲覧係（閲覧課雑誌係から）

大澤晴昌　閲覧課雑誌係（整理課整理係から）

吉光紀行　閲覧課雑誌係（整理課総務係から）

大沢恵子　閲覧課雑誌係（閲覧課閲覧係から）

日　誌

10月22日(水)	工学部分館図書委員会
10月23日(木)～24日(金)	第22回日本医学図書館協会中国四国地区部会（於　高知医科大学）
10月31日(金)	機械化推進委員会
11月12日(水)～14日(金)	第27回中国四国地区大学図書館研究集会（於　岡山大学）
11月26日(水)	医学部分館図書委員会
11月27日(木)～28日(金)	第13回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会及び同係長会（於　広島大学）
12月 5日(金)	第19回本館図書委員会
1月29日(木)～30日(金)	昭和61年度国立大学附属図書館事務部長会議（於　山口大学）

編集・発行　山口大学附属図書館　〒753 山口市大字吉田 電話（0839）22－6111 内線 788